

2026年3月期 第2四半期 決算説明会

2025年11月18日

株式会社ペルセウスプロテオミクス
(証券コード：4882)



- 01 当社について**
- 02 事業概況**
- 03 2026年3月期 第2四半期 決算概況**
- 04 事業活動を加速させる取り組み**
- 05 今後の事業展開**

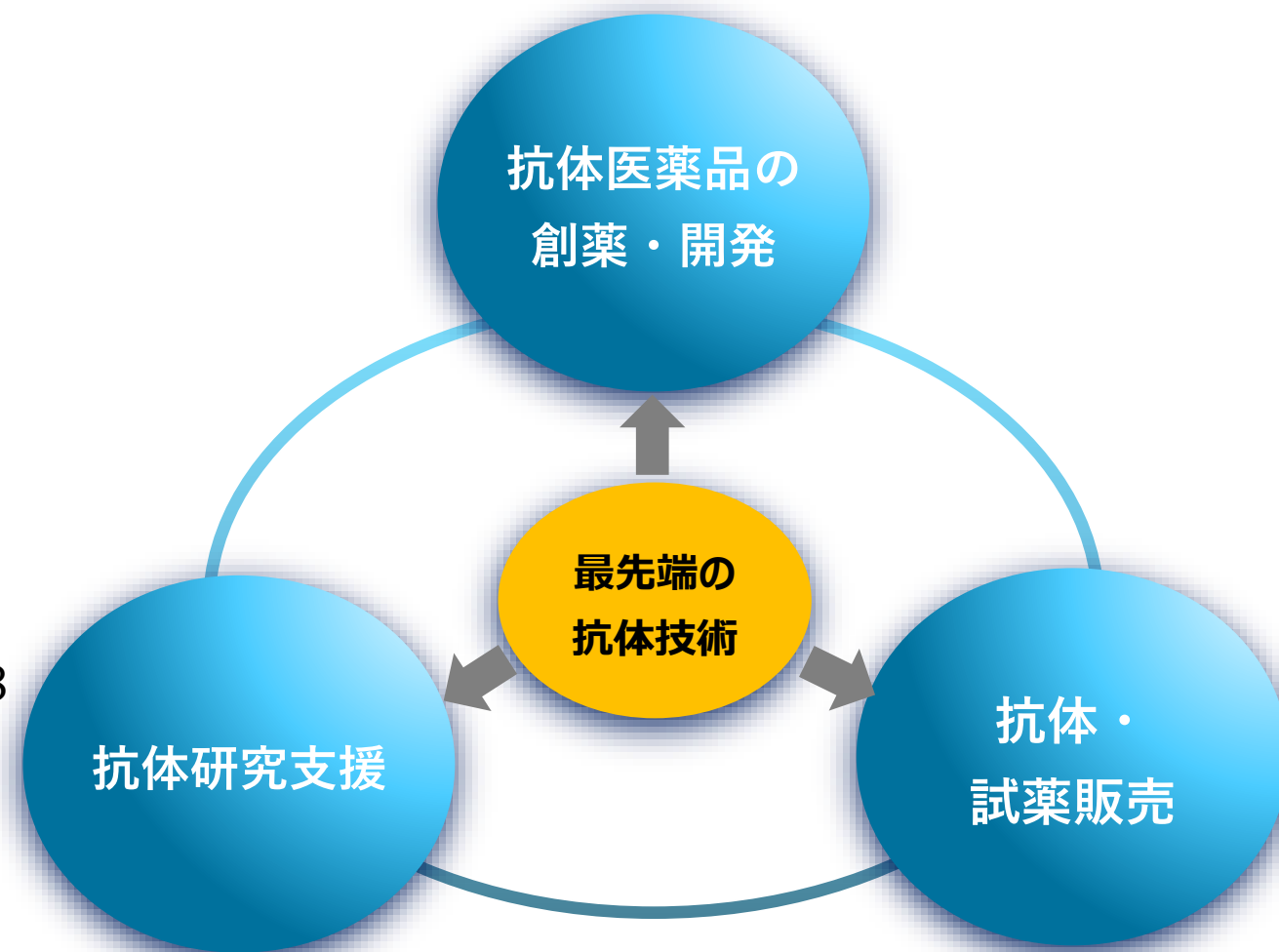
01 当社について

会社概要

最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する会社です

社名	株式会社ペルセウスプロテオミクス（略称：PPMX）
設立	2001年2月
事業内容	<ul style="list-style-type: none">● 抗体医薬品の創薬・開発● 抗体研究支援● 抗体・試薬販売
証券コード	4882
拠点	本社・ラボ：東京都中央区日本橋箱崎町30-1 名古屋ラボ：愛知県名古屋市千種区千種2-22-8
資本金	500百万円*
従業員	34名*（臨時従業員は含まず）

----- 当社の事業モデル -----



02 事業概況

2026年3月期：計画と第2四半期の進捗

計 画

- 1 導出活動：
PPMX-T003 / PPMX-T002
- 2 臨床開発：
PPMX-T003のアグレッシブNK細胞白血病
の医師主導治験2026年3月に終了
- 3 探索研究：
PPMX-T004の予備毒性試験で薬効と毒性
のバランスを最適化、非GLP毒性試験の開始
- 4 基盤技術：
完成したライブラリ2を用いてDBを整備
高難度抗原に対する抗体の取得を進める

進 捗

- 国内外のあらゆるネットワークを利活用して、導出活動を継続中
- 症例登録が4例まで進捗
- 治験調整医師の判断により、試験期間は2027年3月31日まで1年間の延長予定
- 治験施設として大阪大学病院が参加予定
- T004は薬効と毒性のバランス最適化検討中
進捗を第84回日本癌学会学術総会で発表
- 非GLP毒性試験を実施中
- A-STEP 産学共同 ステージII に採択
- 日本抗体学会にて3演題を発表予定

- ① あすか製薬と新規抗体医薬創出を目指し共同研究契約を締結
- ② A-STEP 産学共同 ステージII（本格フェーズ） に採択
- ③ AMED「ニューモダリティコンソーシアム」へ入会

① あすか製薬と新規抗体医薬創出を目指し共同研究契約を締結



あすか製薬株式会社

スペシャリティファーマ

-強み-
内科、産婦人科、泌尿器科の
領域で豊富な経験と実績

共同研究契約締結



抗体創薬ベンチャー

-強み-
独自の抗体技術を活用した
新規治療薬の研究・開発

革新的抗体医薬品

特定の疾患領域に対する新規抗体医薬品を創出

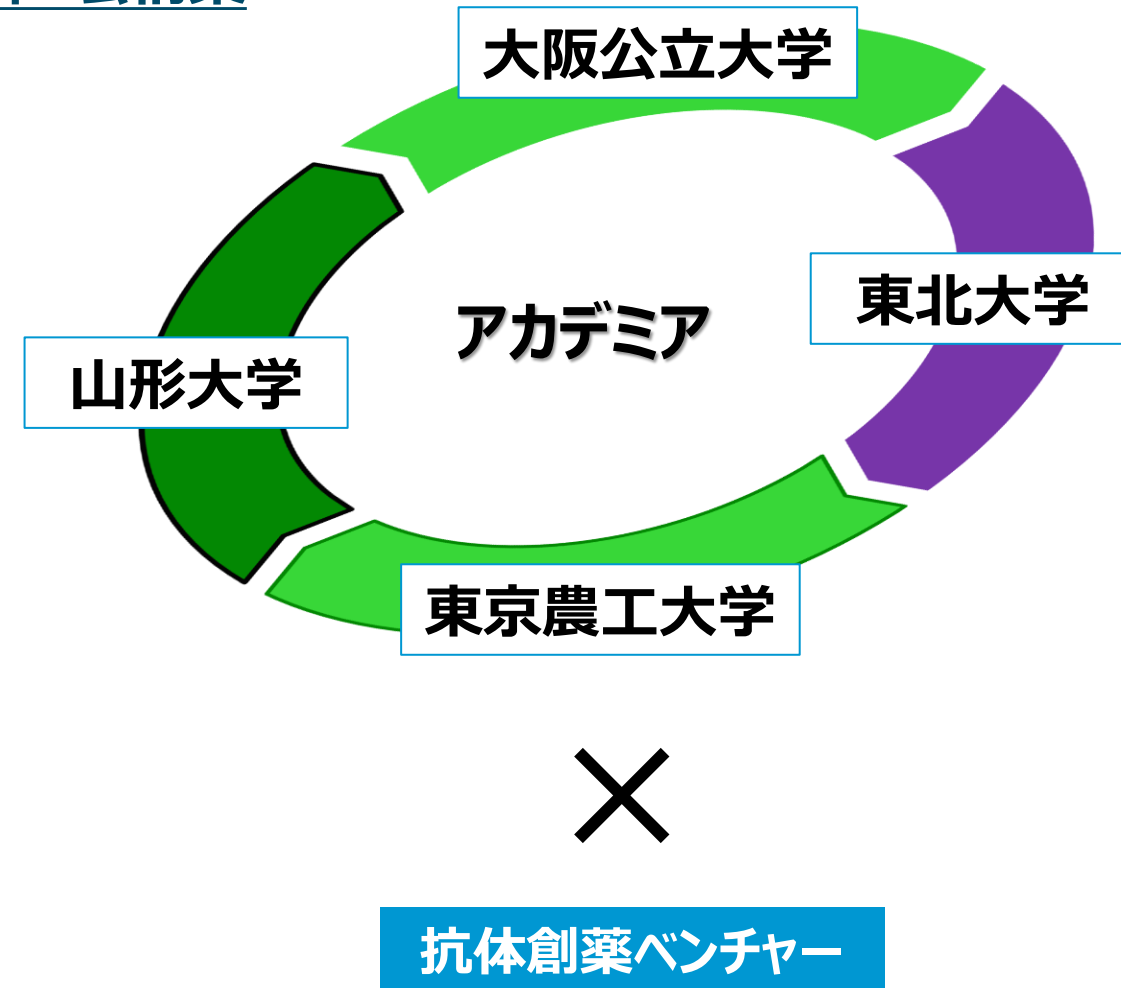
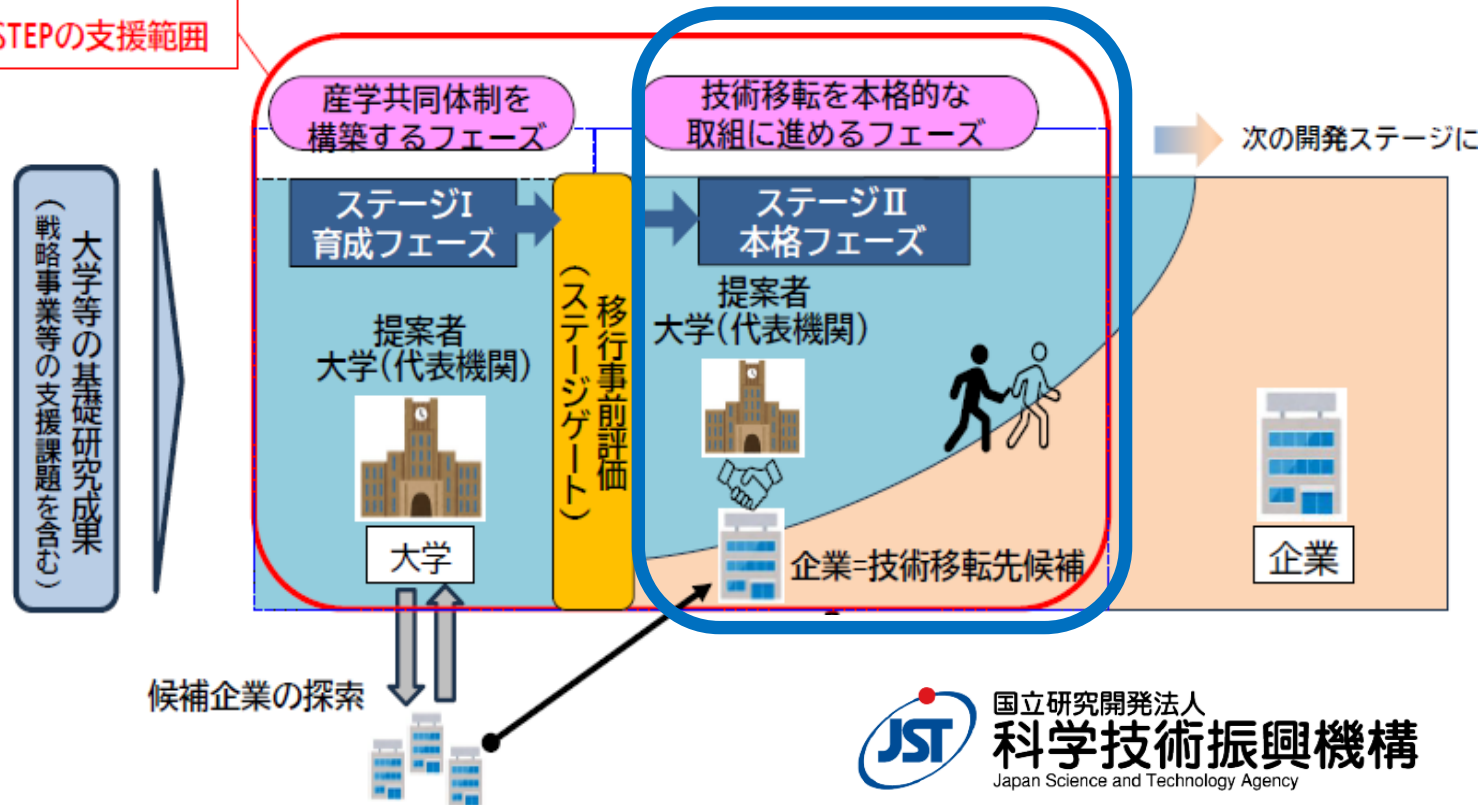
② A-STEP 産学共同 ステージII に採択

課題名：完全天然IgG型二重特異性抗体医薬の創製プラットフォーム構築

A-STEP産学共同ステージII とは

社会課題解決等に向けて、大学等の基礎研究成果（技術シーズ）を、大学等と企業等との共同研究により、実用化に向けた可能性を検証し、中核技術の構築に資する成果の創出と、その成果を大学等から企業等へ技術移転することを目指す

A-STEPの支援範囲

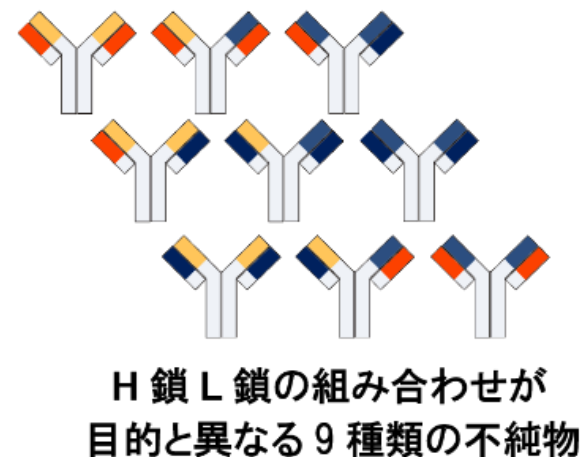
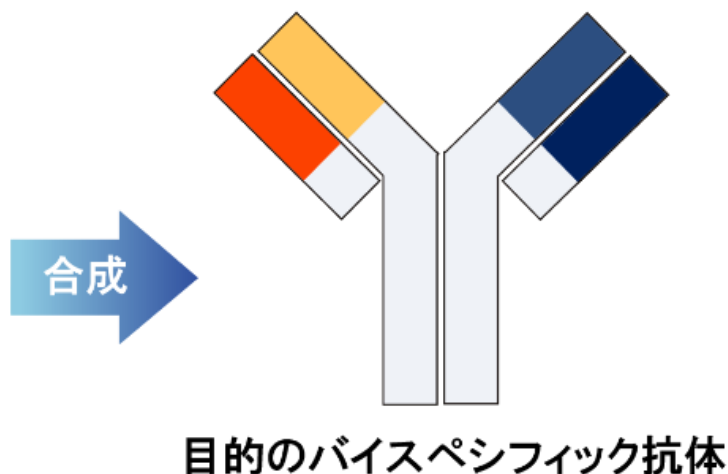
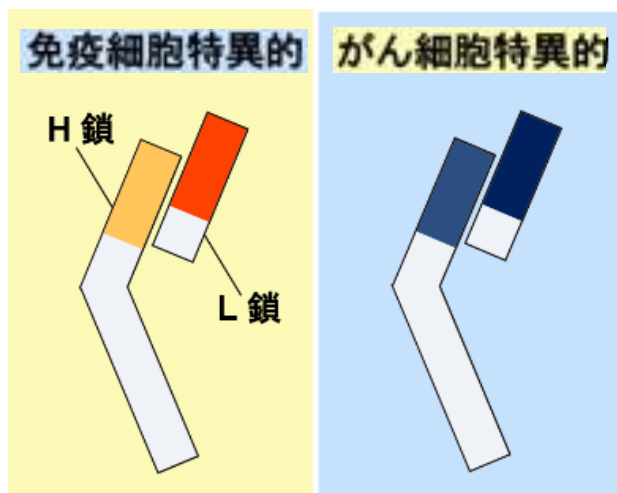
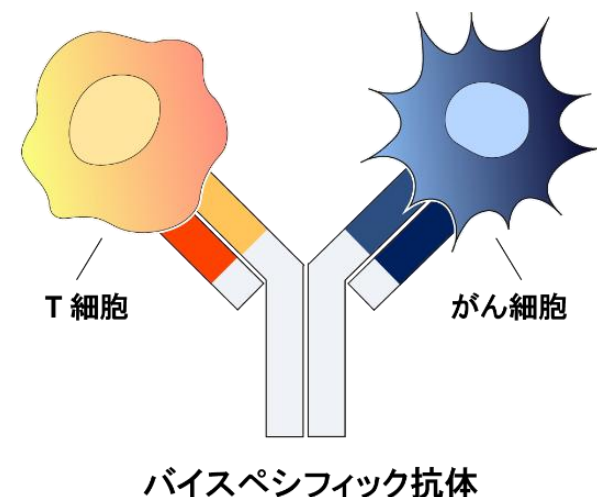


② A-STEP 産学共同 ステージII に採択

課題名：完全天然IgG型二重特異性抗体医薬の創製プラットフォーム構築

課題の概要

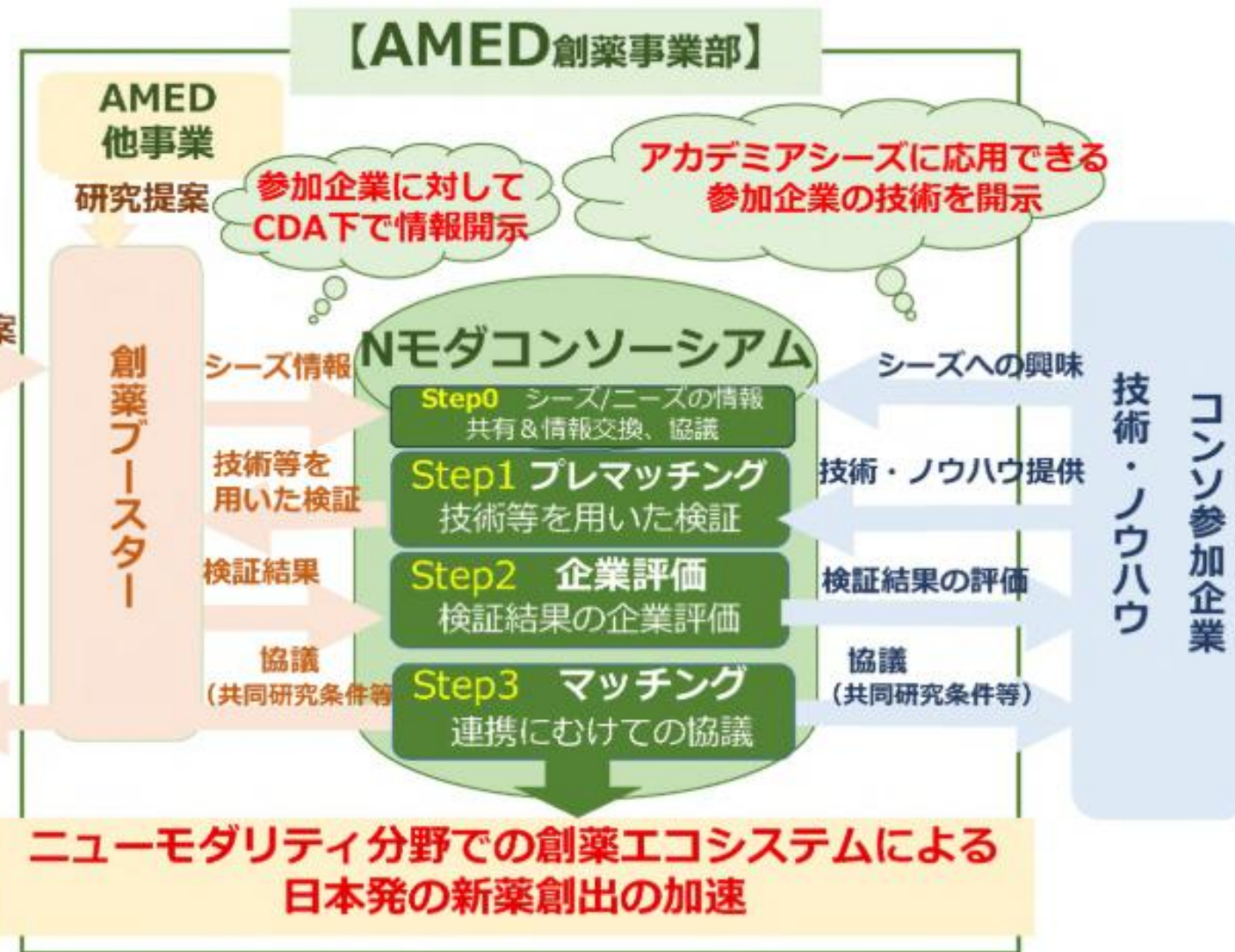
バイスペシフィック抗体（BsAb）は、単一の標的分子を狙った従来の抗体医薬品では成し遂げられなかった機能を発揮する新世代の医薬品だが、製造工程において、目的のBsAb抗体1種類に対して、9種類の不純物が生産されてしまうことが大きな課題。



各大学が有する次世代バイオ製剤設計技術を組合せ、高機能な**完全天然IgG型BsAbの作製・製造技術の確立**
完全に天然配列のみで構成した抗体分子のスクリーニング及び工業的製造までを一貫して実現するプラットフォームを確立

③ AMED「ニューモダリティコンソーシアム」へ入会



「ニューモダリティコンソーシアム」について



当社事業に与えるインパクト

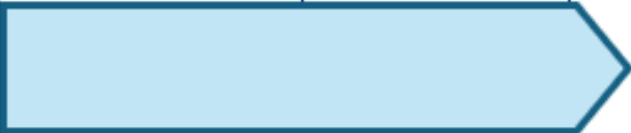

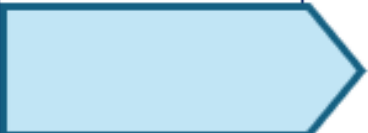

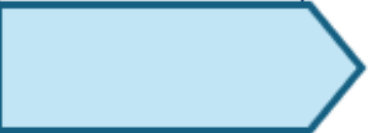

- 大学等のもつ萌芽的なシーズに効率よく早期にアクセスが可能
- 自社技術と新たなシーズのマッチングにより、自社パイプラインを増やす機会
- 検証試験に必要な費用は原則としてAMEDで負担し、シーズの検証ができる
- 大学等との共同研究開始に向けてのプロセスを規約で定めるため、効率よく共同研究を開始できる

開発パイプラインの状況

開発コード	標的	対象疾患	創薬研究	非臨床試験	Phase1	Phase2	備考
PPMX-T003	TfR1	真性多血症	導出活動中				
		ANKL ¹⁾	医師主導治験				
PPMX-T002 (RIT ²⁾)	CDH3	固形がん	富士フイルム株式会社による治験は終了 *				* RI: ⁹⁰ Y
			導出活動中**				** RI: ²²⁵ Ac
PPMX-T004 (ADC ³⁾)	CDH3	固形がん					

1) アグレッシブNK細胞白血病 2) 放射性同位標識抗体 3) 抗体薬物複合体

創薬パイプラインの状況

モダリティ	標的	対象疾患	抗体スクリーニング 系構築	抗体取得	抗体最適化	非臨床試験	提携先 ※
BsAb ¹⁾	非公開	血液がん					中部大学
BsAb ¹⁾ /ADC ²⁾	非公開	固形がん					非公開
ADC ²⁾	非公開	固形がん					 国立がん研究センター
naked ³⁾	非公開	消化器系疾患					 国立がん研究センター

1) 多重特異性抗体 2) 抗体薬物複合体 3) IgG抗体

※ 一部、非開示

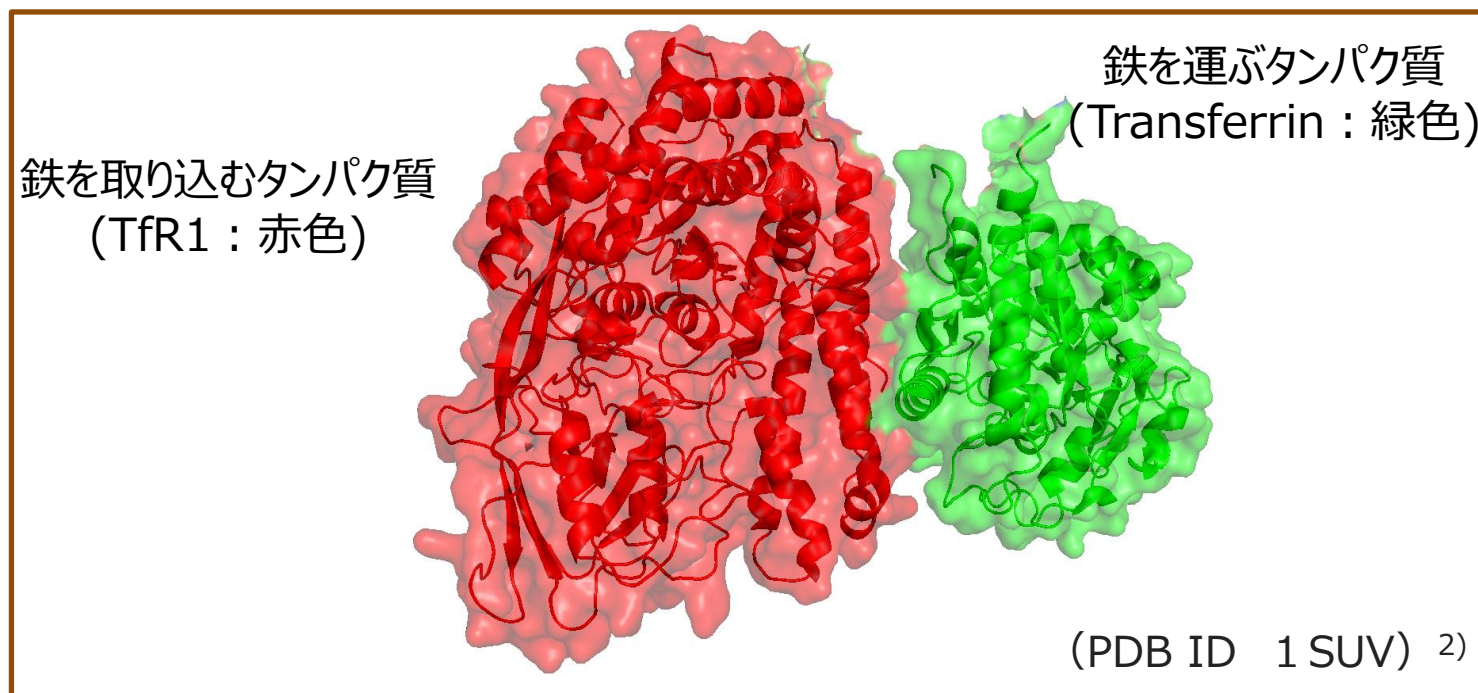
PPMX-T003 : 真性多血症領域の進捗状況

導出活動

- 国内外のあらゆるネットワークを利活用して、導出活動を継続中

最新状況

- PV治験の投稿論文作成中
- PV治験における一部の治験責任医師が中心となり、臨床研究が開始



研究名称 : PPMX-T003-CT102試験参加者を対象としたT003の薬力学的効果の推測及び臨床検査値の推移から病態変化の傾向を探索する研究

研究代表医師 : 関西医科大学附属病院 血液腫瘍内科 主任教授 伊藤 量基先生

実施期間 : ~2026年3月31日

備考 : jRCT ¹⁾ 臨床研究実施計画番号番号 : jRCT1050250129

1) jRCT <https://jrct.mhlw.go.jp/>

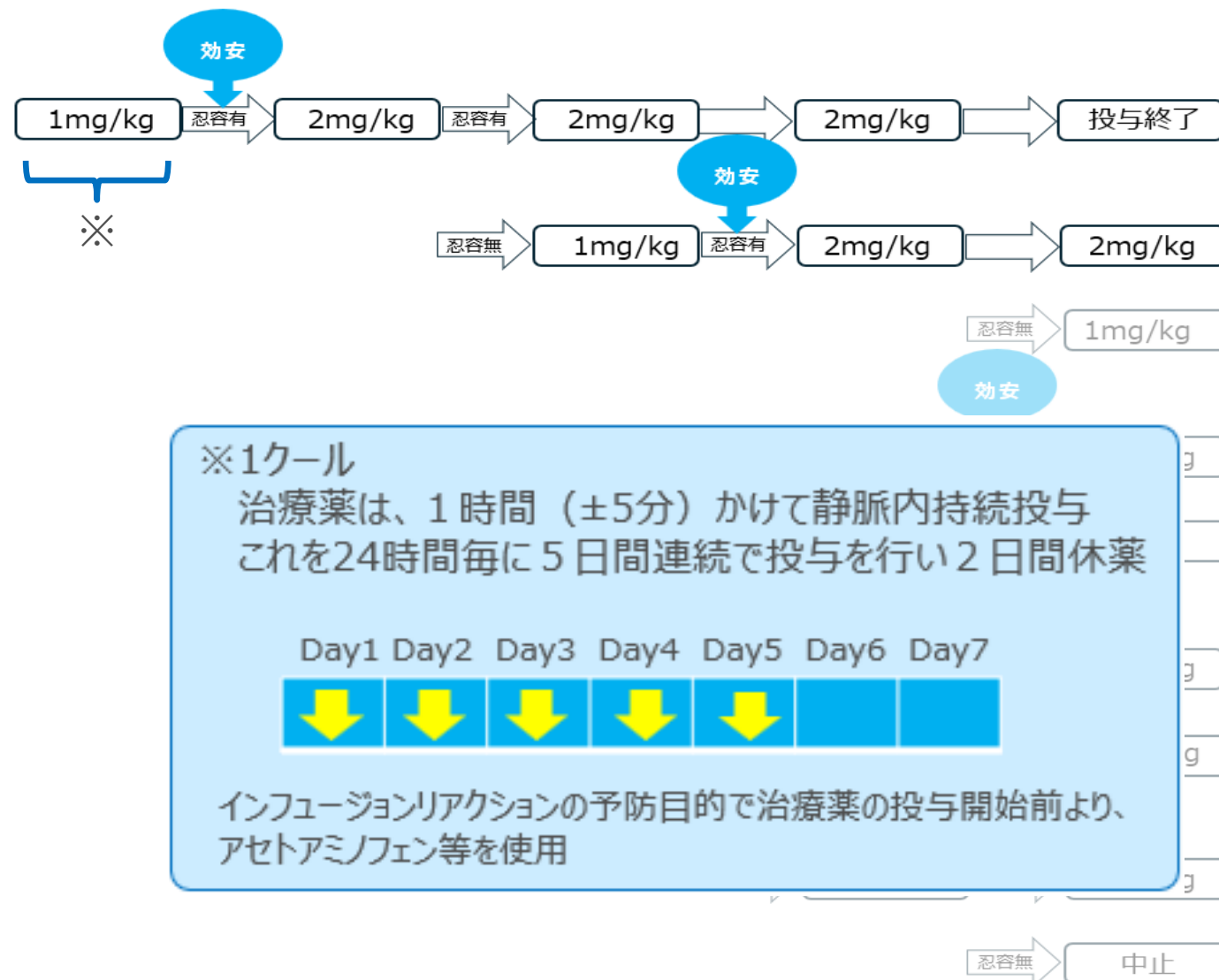
2) Protein Data Bank

PPMX-T003 : ANKL対象P I / II (医師主導治験)

治験概要

- 試験デザイン：非盲検・非対称・用量漸増
- 対象：アグレッシブNK細胞白血病
 - 超希少疾患
 - 有効な治療法が存在しない
 - 平均生存日数は58日
 - AYA世代（15-39歳）、40歳代に多い
- 主要評価項目：忍容性及び安全性
- 実施期間：2023年4月～2027年3月（予定）
- 治験調整医師：広島大学病院 血液内科 安藤 潔 先生
- 治験実施施設：全国9医療機関（1施設追加予定）
- 備考：AMED創薬支援事業の支援*を受けて実施
jRCT番号：jRCT2061230008

漸増/漸減スケジュール（中用量群）



PPMX-T003 : ANKL対象P I / II (医師主導治験)

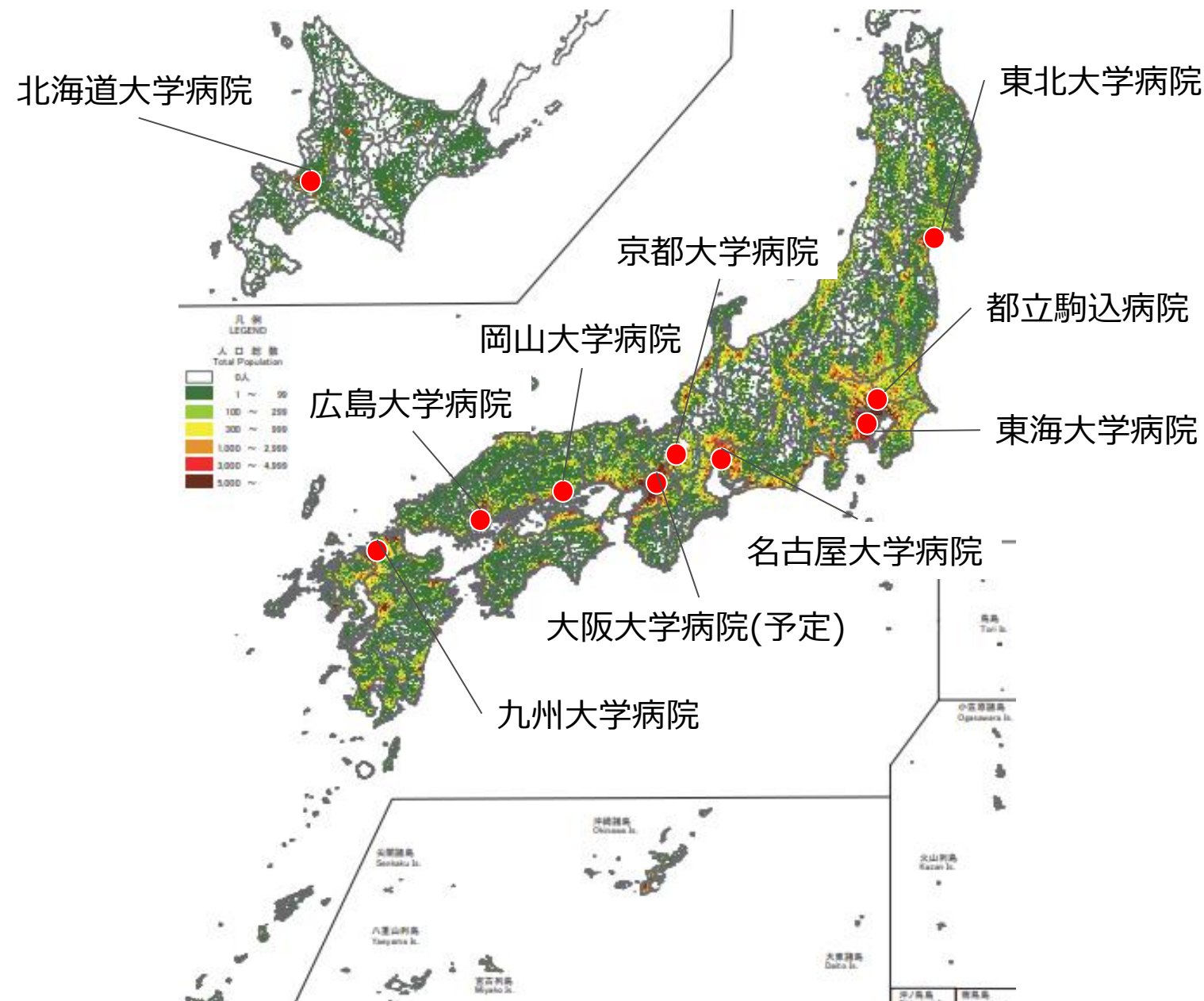
最新状況

- 登録症例は4症例に到達
- 治験期間は2027年3月まで1年延長する予定
- 治験施設は大阪大学病院を追加する予定

今後の計画

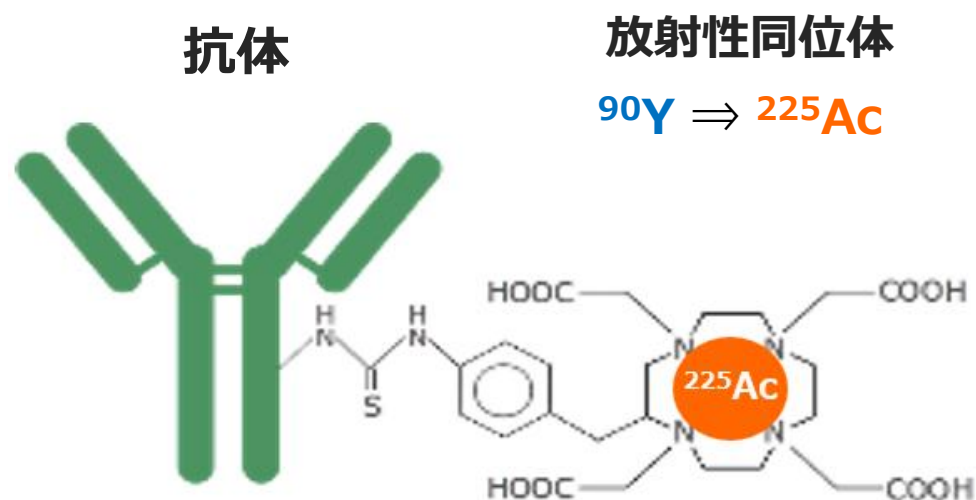
- PMDA相談
- オープン申請

世界初のANKL治療薬を目指す



PPMX-T002 : 進捗状況

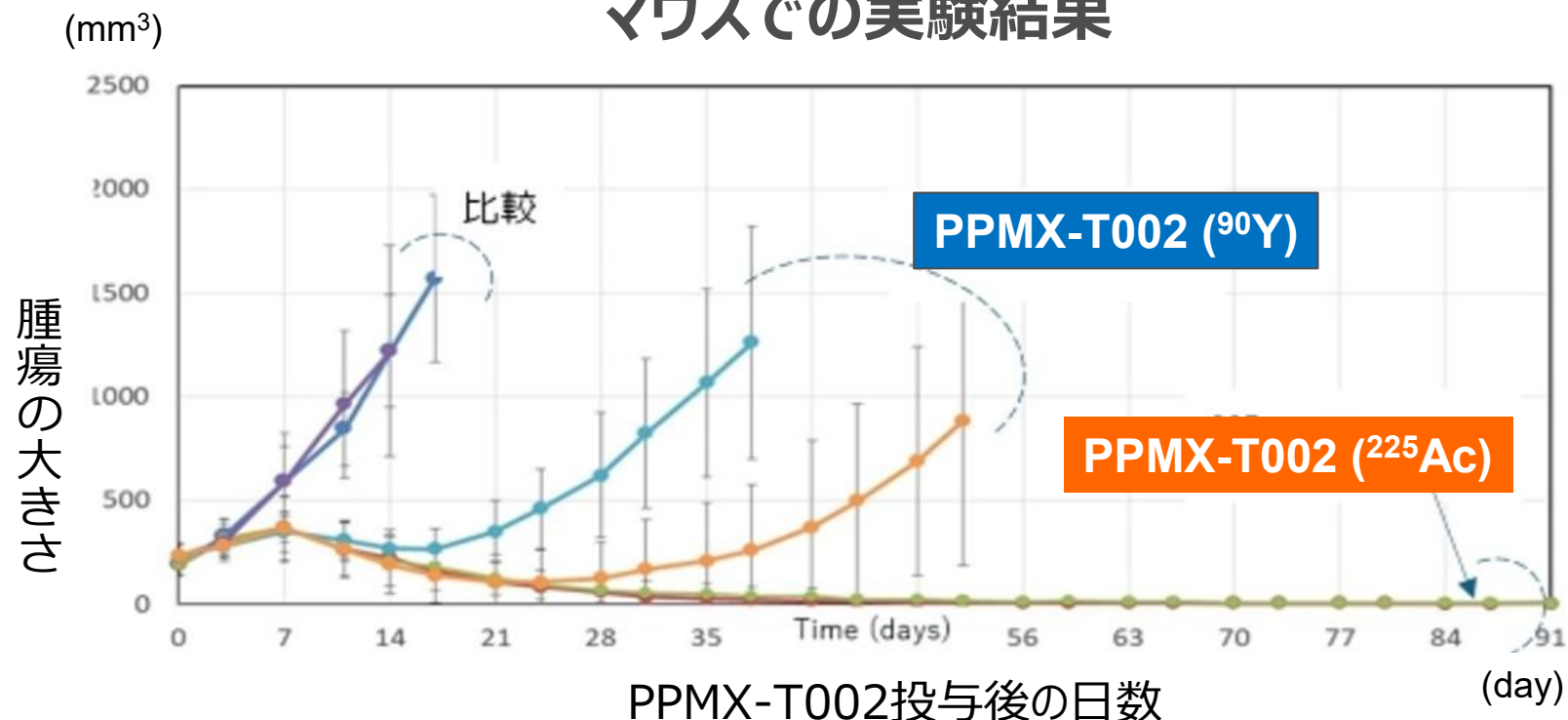
構成



導出活動

- 国内外のあらゆるネットワークを利活用して、導出活動を継続中

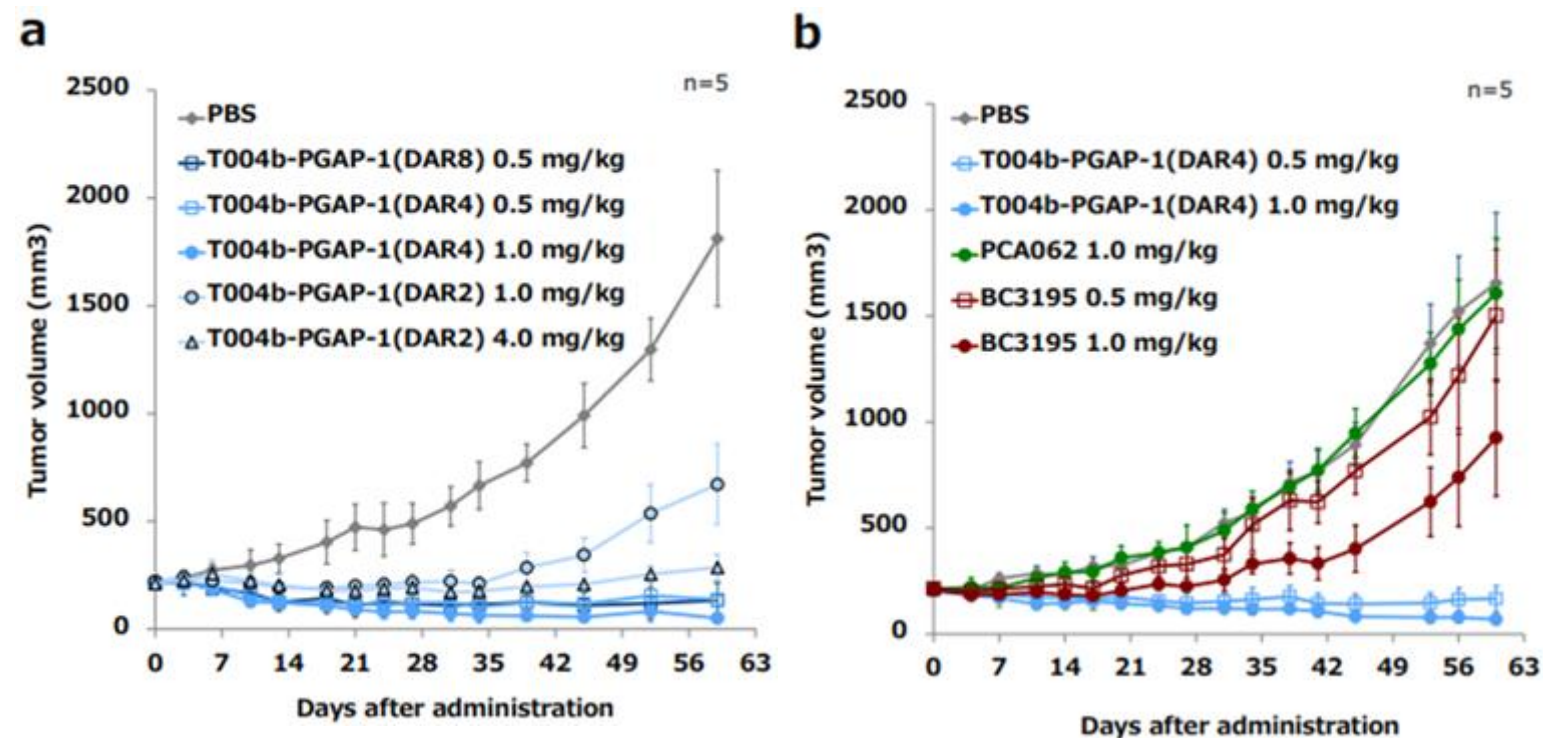
マウスでの実験結果



抗腫瘍効果をさらに高める目的で、放射性同位体 (RI) をイットリウム90 (^{90}Y) からアクチニウム225 (^{225}Ac)へ変更

非臨床試験において抗腫瘍効果を検証

- PPMX-T004b-PGAP-1 は、卵巣がん、胆道がん、頭頸部がん等の固形がんに多数発現が見られるCDH3を標的とする抗体薬物複合体（ADC）
- 現在、ADCとして開発を進めているPPMX-T004のひとつで薬効と毒性の最適化について評価検討中



(a) Tumor growth following single dosing at day 0 in BxPC3 xenograft mouse models with different DARs.

(b) Comparison of tumor growth with preceding ADCs.

* Drug Antibody Ratio (抗体1分子あたりの薬物結合数)

03 2026年3月期 第2四半期 決算概況

2026年3月期 第2四半期：業績

● 損益計算書

(単位：百万円)

	FY2025/3 上半期	FY2026/3 上半期
売上高	59	60
売上総利益	55	57
販売管理費	469	457
研究開発費	304	310
その他	164	146
営業利益	△414	△399
経常利益	△427	△345
特別損失	66	32
法人税等	1	0
純利益	△495	△379

抗体研究支援

抗体・試薬販売

PPMX-T003 ANKL治験

PPMX-T004非臨床試験費用

本社の現状回復費用・設備投資の減損損失

- 売上高：前年同期比約2.6%増
- 研究開発費：PPMX-T003のANKL第I/II相医師主導試験費用、PPMX-T004非臨床試験費用等

2026年3月期 第2四半期：財務状況

● 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		
	2025/3/31	2025/9/30
現金及び預金	1,667	1,385
流動資産合計	1,775	1,447
固定資産	42	14
資産合計	1,818	1,461

負債の部		
	2025/3/31	2025/9/30
流動負債	124	97
固定負債	261	311
負債合計	386	408
純資産合計	1,432	1,053
負債純資産合計	1,818	1,461

- 現預金：研究開発費の支払い等による減少
- 固定負債：PPMX-T003（ANKL治療薬開発）のAMED創薬事業採択による長期預り金
- 自己資本比率：66.1%

04 事業活動を加速させる取り組み

事業活動を加速させる新たな 3 本の矢

ID-Tagで標識された膨大な抗体コレクション

PPMXライブラリ 2 (PPMX Digital ライブラリ)

実験とAIの融合により効率化された抗体設計

AIハイブリッド創薬

多様性のある抗体を高速で取得

シングルBセルプラットフォーム技術

PPMX抗体ライブラリ2（PPMX Digital ライブラリ）

特徴：PPMX抗体ライブラリ1との違い

イメージ

配列解析方法

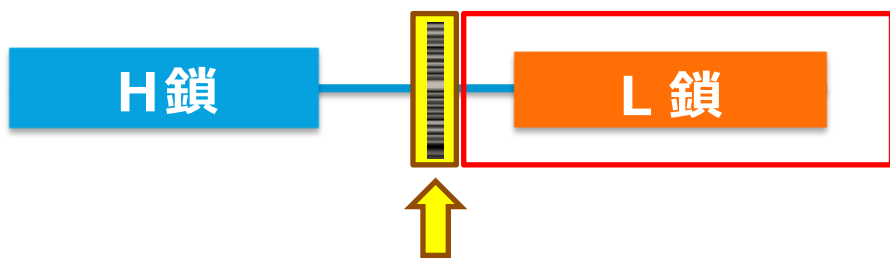
PPMX抗体ライブラリ1



解析数 ➡ 数百クローン

確立された技術
これまで、優れた抗体が取得できている

PPMX抗体ライブラリ2*

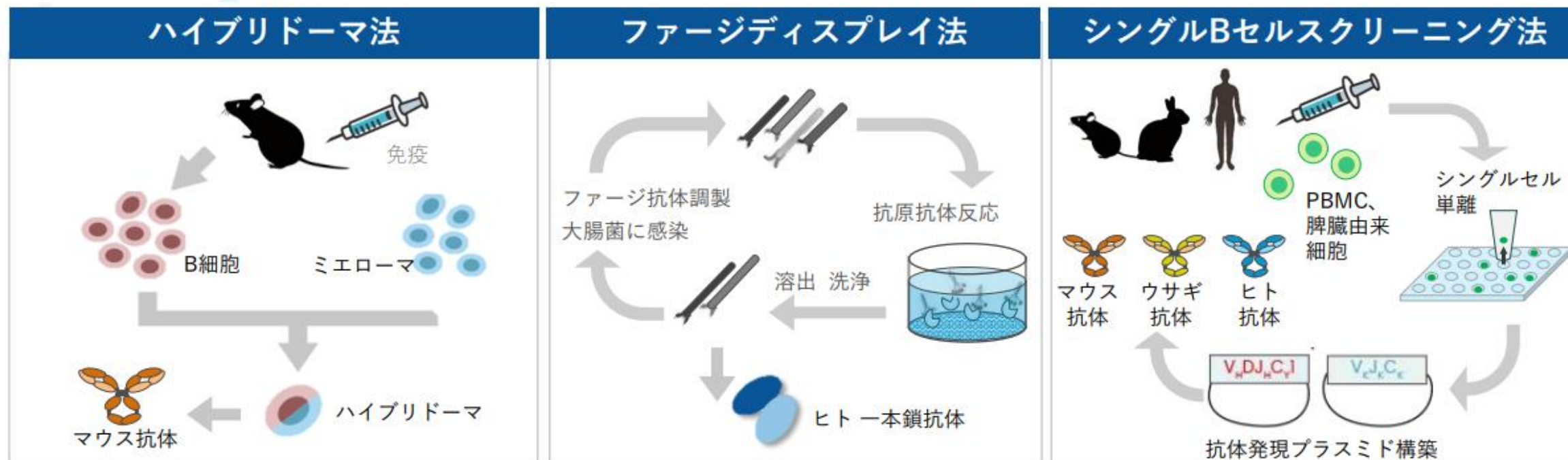


L鎖配列に対応したID-Tagを挿入

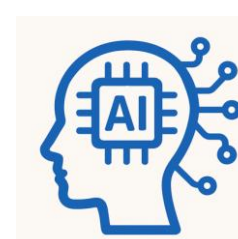
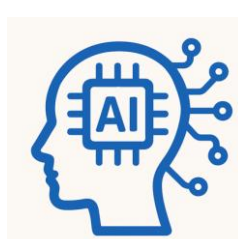
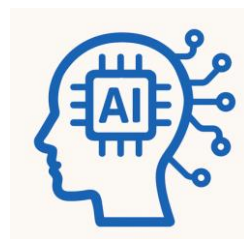


解析数 ➡ 数万～数百万クローン

膨大なデータを用いて抗体取得の効率化を実現。機械学習にも利用



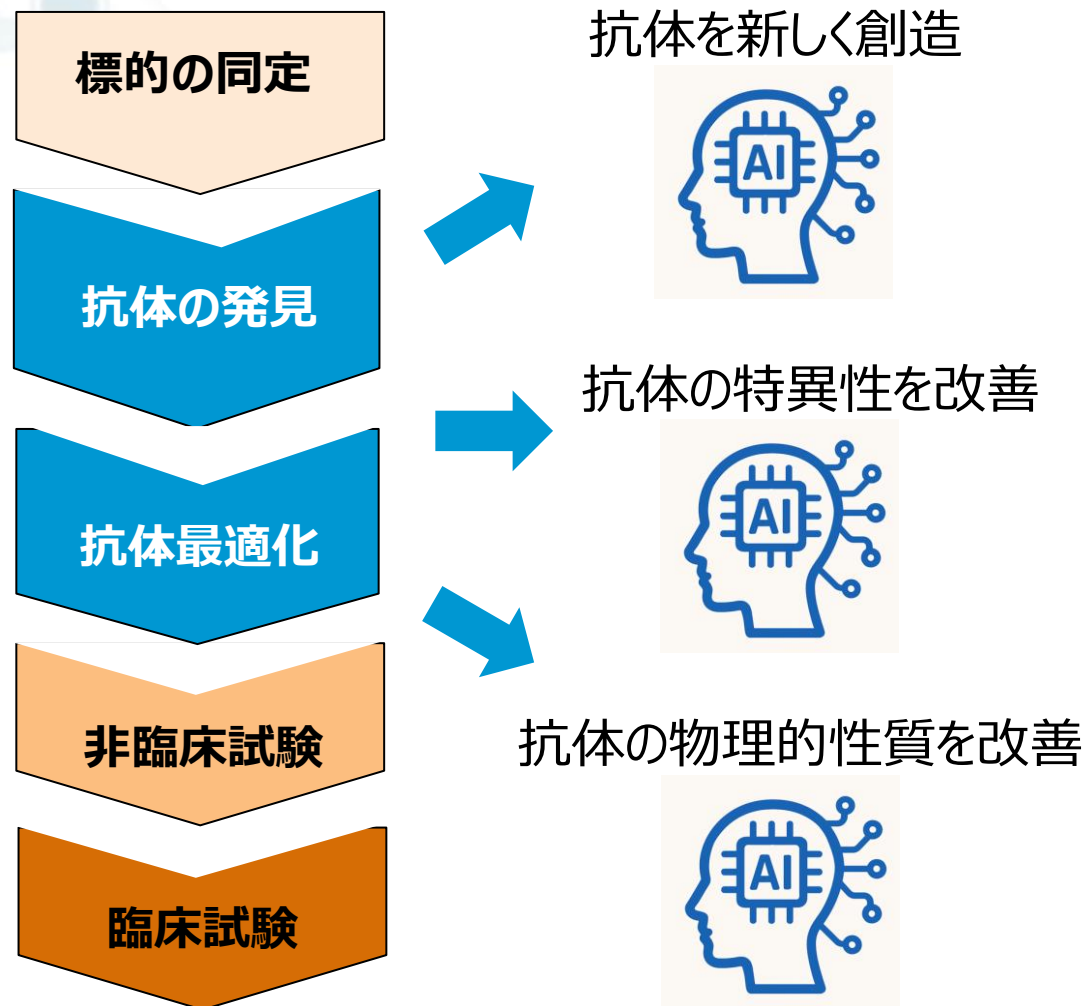
AIモデルの作成・再学習・微調整



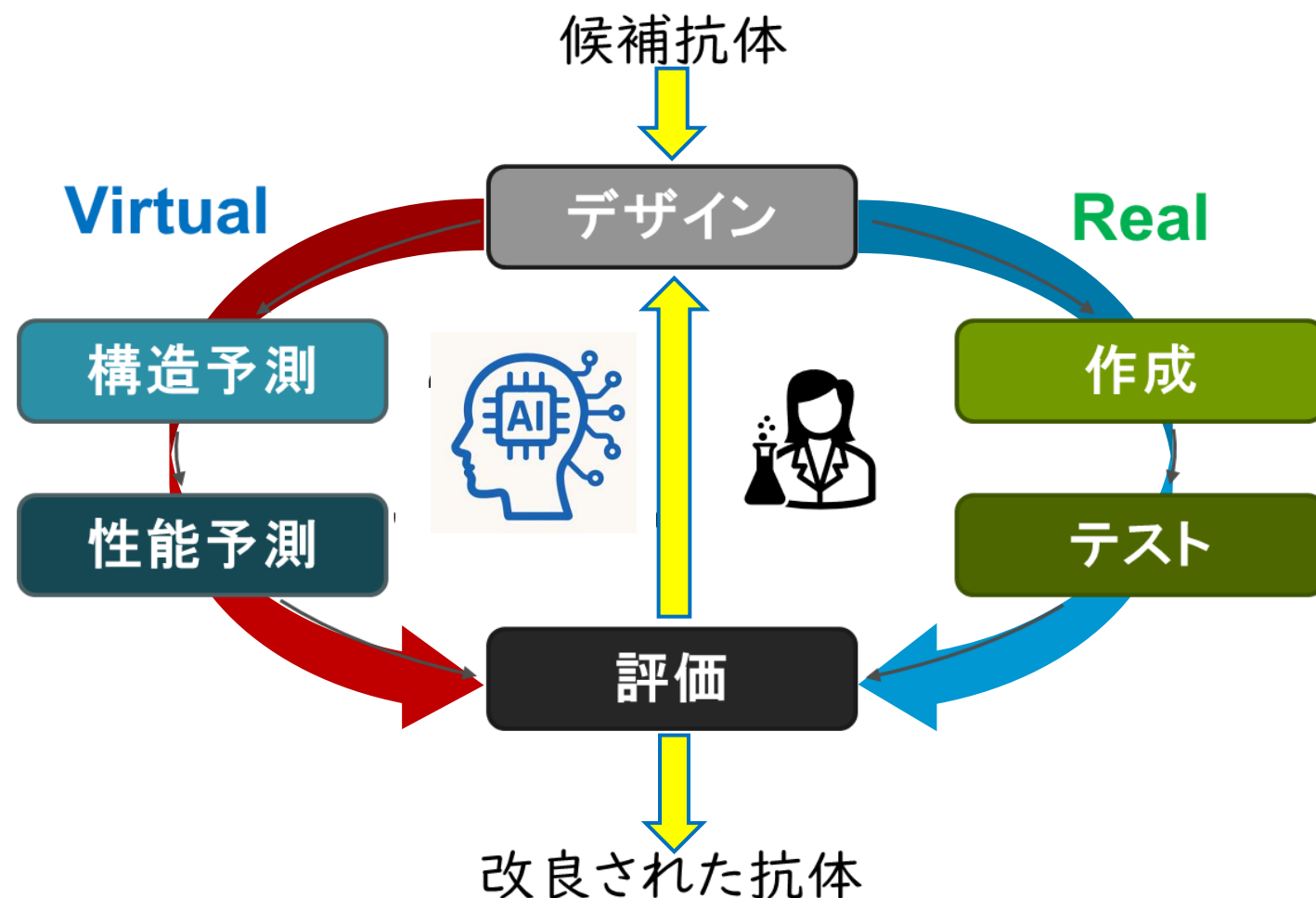
独自のAIモデルを作成し、PPMXの強みに

AIハイブリッド創薬

創薬プロセス



抗体の発見から、抗体最適化までの創薬プロセスにAIを導入



実験とAIの融合により効率化された抗体設計

05 今後の事業展開

当社の「コア・コンピタンス」である最先端の抗体取得技術に
AI創薬の最新テクノロジーを加え、各事業を多面的に支援・強化・推進

AIハイブリッド創薬

抗体取得技術

ハイブリッドマ法

シングルBセルプラットフォーム技術

ファージディスプレイ法

PPMX抗体
ライブラリ1

PPMX抗体
ライブラリ2

医療ニーズにつながる
高難度抗原に対する
抗体の取得

最先端の抗体取得技術を
駆使して世界の医療に貢献

抗体医薬品の
創薬・開発

抗体研究支援

抗体・
試薬販売

決算説明会

Q & A

ご質問は「Q&A」からお寄せください。

**本日は、株式会社ペルセウスプロテオミクス
2026年3月期 第2四半期 決算説明会へご参加頂き誠に
ありがとうございました。**

**ウェビナー退室後、簡単なアンケートをご用意しております。
ご協力の程、よろしくお願い致します。**

**当社では、ホームページより社長メッセージ「ペルセウス通信」を
発信しております。各IRの補足説明やトピックス等を社長自らの
言葉でお伝えしております。是非、ご覧ください。**



<https://www.ppmx.com/newsletter/>



【お問合せ:】

Email: ir@ppmx.com

TEL: 03-6264-8224

FAX: 03-3668-7776

<https://www.ppmx.com>

本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料には、将来についての予想や見通しが含まれております。これらは現在当社で入手可能な情報に基づいて作成しており、経済や医薬品業界の動向などにより、変動することをご了承ください。